

府中がんケアを考える会通信 第29号

2016/12/25



来年度に向けて



「府中がんケアを考える会」会員の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。11月には時ならぬ雪が降り積もる、という気候異変があり、寒さが続きました。高齢者やご病気をなさっている方にはきついことだったと存じます。

師走となり街にはジングルベルが流れ始め、今年ももうすぐ去ってゆこうとしています。この一年は「考える会」にとってどんな一年だったのか自問しています。

本年度を振り返って

▼「患者と家族で語り合う集い」（患者会）は12月11日で31回となりました。この一年では10回、他に総会、12月講演会を行い、府中つながりフェスタに参加しました。

31回を迎えました患者会には毎回8～9名の方が来られます。初めての方も毎回のよういらっしやいます。術後直後の方、抗がん剤投与中の方、7～8年闘病されている方など様々です。

共通して言えることは、自分のがんであることを誰にも話せないで独り悶々と悩み、苦しんでおられたと言うことです。その方たちがこの会に来て初めて自分のがんであることを語り、他の方の悩みを聞き、苦しんでいるのは自分一人ではない、ということが解ったことです。

そして勇気をもらい、頑張ろうという気持ちになり、心が軽くなりましたという方が多くいらっしやいます。

▼役員会では「これだけやっていたら良いのか」という議論が毎回なされます。

2人にひとりのがんに罹患、3人にひとりのがんで亡くなる、という状況です。それでいて多くの人はがんに対して関心が薄いのが現状ではないでしょうか。

検診を受けて“がん”という結果が出た時「死ぬかもしれない」とパニックを起こしてしまいます。“がん”に対してあまりにも無防備だからではないでしょうか。

来年度に向けて

▼来年度の課題として、“がん”に対する市民の声、意識をできるだけ多くの方に伺うため、アンケート調査を行っています。

一つは“がん”に対して関心を持ってもらい、一つは調査の結果を市の関係部署に提供し、共に“がん”について考えて行ける運動を作ろうと話し合い、計画を進めています。



府中市民協働まつり『つながりフェスタ』出展報告

市原役員



11月27日(日) グリーンプラザ6階の一角にブースを設けて、例年同様当会活動の紹介や、介護・看護相談を行いました。

そして今年は新たに、市民の方々にがんケアの充実に向けて現状把握の為のアンケートを行いました。当会ブースに立ち寄られた方々の他に、5階、6階に展示されていた団体の皆様にもアンケートをお願いし、協力いただきました。感謝の限りです。

ブースの前を通過いただいた方々が、今は関心がなくとも「府中がんケアを考える会」という団体があることを、必要な時に思い出していただければという思いも込めてPRしました。

中には当会に関心を寄せて立ち寄っていただいた方もいらっしゃいました。

抗がん剤治療中の娘にどのように接してあげれば良いかと悩んでおられる方に、当会の同じがん患者の立場からアドバイスをさせて頂いたことで、気持ちが楽になりましたと、笑顔を見せてくださいました。

秦野ピースハウスホスピス病院のパンフレットに目を留めて立ち止まれた方は、1か月前にピースハウス病院でお父様を看取られ、涙ながらに心境を語ってください、当会の活動にも賛同してくださいました。

また、乳がんの手術をせず経過を見ておられる80歳台の方は何十年も再発の不安と向き合いながらもそれまでの経過を朗らかに語ってください、前向きな生き方に勇気を頂きました。

1日限りの出展でしたが、毎年新しい出会いや繋がりがありません。来年は今年より、さらに充実した出展を目指して行きたいと思っております。

会員の皆様から、来年度の出展に向けて、ご提案やご意見等ありましたら是非お寄せください。

12月講演会 49人の参加で開催

12月11日ルミエール府中において12月講演会が開催されました。

今回は多摩総合医療センター・ソーシャルワーカー 堀尾彩乃さんより「多摩総合医療センター・がん相談支援センターのこと」と題して講演をいただきました。

会員、患者会、一般の方を含め49名の参加でした。講演後は質疑応答、終了後には懇親・忘年会が持たれました。詳しい講演内容は次回通信にて報告します。



がんケア豆知識 第8回 「病院の機能分化」

訪問看護師 宮田乃有

近年、多摩総合医療センターなど入院設備をもつ「病院」は、患者さんのニーズに合わせた機能分化が進められています。

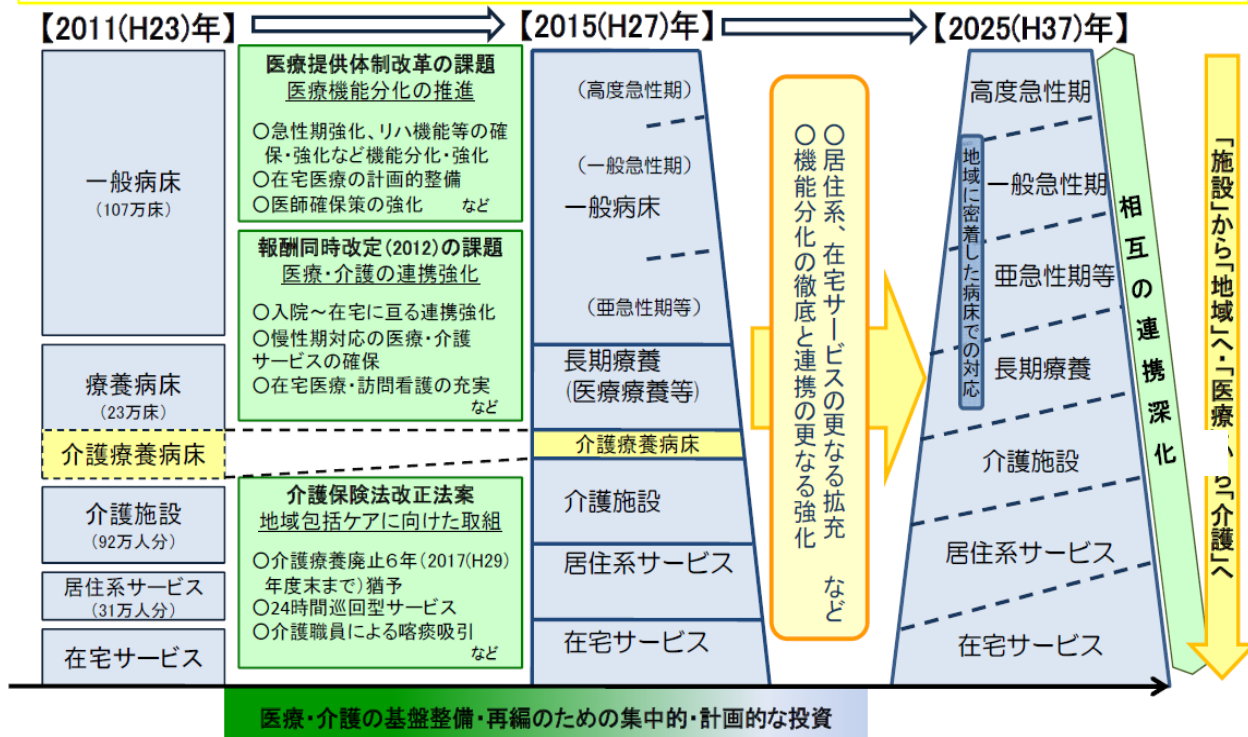
かつては、「社会的入院」といって病状や体調の悪化ではなく介護力不足等の理由で病院に入院するということもありました。しかし現在、病院はあくまで入院しなければならない「治療」を行う場所であり、痰の吸引など日常的な医療やケアのニーズが高い方は、ケア機能を強化した病院や施設が適用されるようになっていきます。

今後、団塊の世代が75歳を迎える2025年に向けて、病院はますます機能の分化と連携の強化が進んでいきます。介護施設(特別養護老人ホーム、老人保健施設)や居住系サービス(有料老人ホーム、グループホーム、サービス付高齢者住宅)、在宅サービス(訪問診療、訪問看護、訪問介護、デイサービスなど)も拡充されます。

同じ医師に継続して診てもらいたい、という方が多いのではないかと思います。健康診断などを担う近うのかかりつけ医、手術や化学療法・放射線など高度な治療を行う担当医、緩和医療の担当医、訪問診療医など、「モチは餅屋」として各分野の専門医の診療を受けることはメリットもたくさんあります。大切なのは、各医師や関係機関がきちんと「のりしろ」をもちながら連携し、患者さんやご家族をサポートしていくことです。病院や地域にある相談窓口や訪問看護なども活用して、「私のケアチーム」を一緒につくっていきましょう。

将来像に向けての医療・介護機能再編の方向性イメージ

- 病院・病床機能の役割分担を通じてより効果的・効率的な提供体制を構築するため、「高度急性期」、「一般急性期」、「亜急性期」など、ニーズに合わせた機能分化・集約化と連携強化を図る。併せて、地域の実情に応じて幅広い医療を担う機能も含めて、新たな体制を段階的に構築する。医療機能の分化・強化と効率化の推進によって、高齢化に伴い増大するニーズに対応しつつ、概ね現行の病床数レベルの下でより高機能の体制構築を目指す。
- 医療ニーズの状態像により、医療・介護サービスの適切な機能分担をすとも、居住系、在宅サービスを充実する。



副会長 小澤幸治さんを追悼する

駒ヶ嶺 泰秀

副会長の小澤幸治さんがお亡くなりになりました。

かねてより、自宅で療養されておりましたが、ご高齢ということもあり、11月6日、91歳で還らぬ人になりました。

氏が時折昔の若かったころのご自身と市の発展の歴史を語ってくれました。また出征兵士の体験として乗船していた船が攻撃されて沈没し、命からがら助かったことなどをお伺いしました。数年前にはそうした体験や、市議会議員をされていた頃、暗闇まつりのこと等を綴った本を出版なさいました。

平成13年に「府中ホスピスを考える会」を創設してからは、いわば縁の下の力持ち的存在として会をいつも支えてくださいました。改めて氏のご冥福をお祈りいたします。

合掌

「患者と家族で語り合う集い」報告

患者会運営役員

11月20日(日)に第31回目の「患者と家族で語り合う集い」(以下、患者会)が中央文化センターの会議室にて開催されました。

月に1度の患者会に、毎回参加なさる方、お久しぶりの方、初めて参加された方。皆さん和やかに話されています。

今回も、自己紹介に始まり、治療や薬、主治医とのコミュニケーション、再発・転移への不安、毎日の食事の工夫…などの話題で、気がつけば2時間が、あっという間に過ぎていました。

最近の患者会への参加人数は毎回5人から10人程度で、がんの部位・種類・ステージ等は様々です。患者さんご本人だけでなく、ご家族だけで参加される方や、お子さん連れの方もいらっしゃいます。

「この会に来て色々な情報を得られて治療する勇気が出た」

「健康な友人たちには言えない不安や本音を、患者会なら安心して話せる」

初めは緊張の面持ちでいらした方が、患者会が終わる頃には笑顔で「また来ます」と言ってお帰りになれる姿に、役員一同、頑張る勇気をいただいています。

これからも、がん患者さんやご家族が安心してお話ししたり情報交換ができる機会として、月に1回の患者会を続けて開催していきます。年に2回の講演会と併せて、どうぞよろしく願いいたします。

今後のスケジュール

1月29日 午後1時30分 患者会(中央文化センター・第一会議室)

2月26日 午後1時30分 患者会(未定)

5月21日 午後1時30分 定期総会・講演会(詳細未定) ルミエール府中 講習会議室(2階)

編集後記 恒例の11月フェスタ、12月講演会が終わるとあっという間に年末です。皆さん一年お疲れさまでした。小林美希さんの「ルポ 看護の質」を読みました。医療行政の一部が理解できました。なんとなく理解していた正、准看護師の違いがよくわかりました。

武智

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0004 東京都府中市紅葉丘3-33-4 駒ヶ嶺 泰秀 電話・FAX 042-302-2607

Mail: ktakechi@fuchugancare.org(武智)